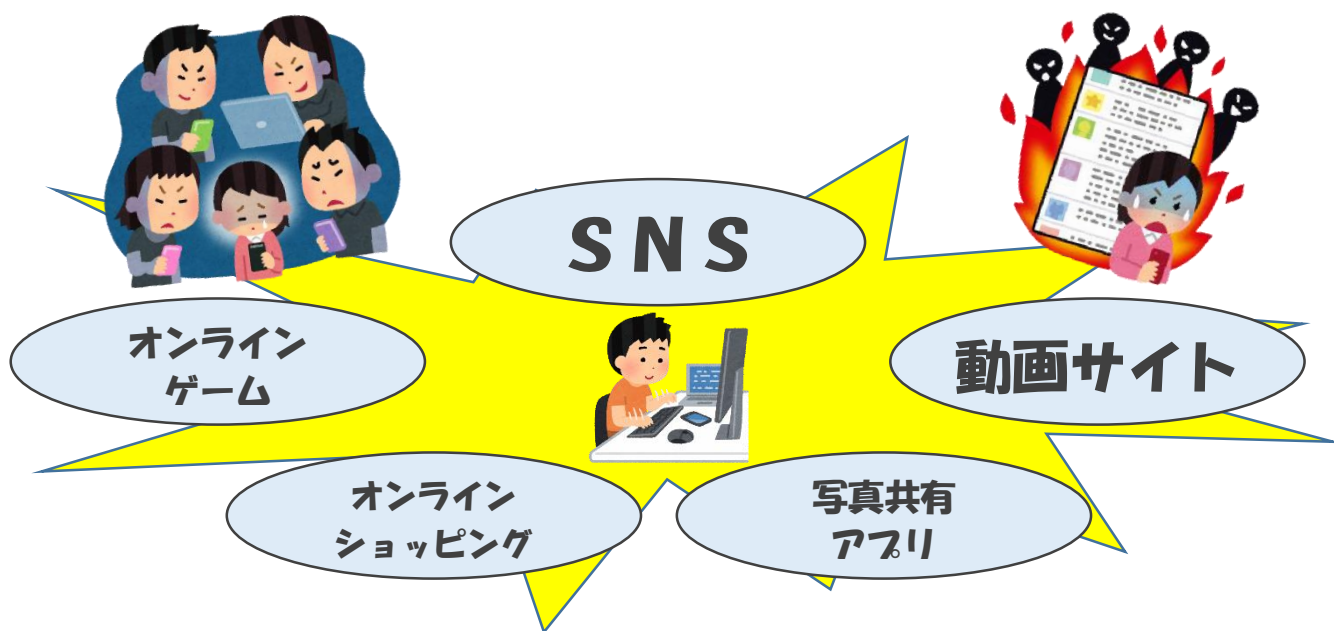


# 我が子を守る

思いがけないインターネットトラブルから



## お子様との話題にしてみませんか？

子どもたちのインターネット利用は、多様化・低年齢化が見られ、インターネット利用時のトラブルも増加傾向にあります。このようなトラブルは、いつでも誰にでも起こり得るものです。

子どもにスマートフォンや携帯電話を持たせるとき、一番の責任は保護者にあります。また、子どもの成長に伴い、保護者が負わねばならない責任も大きくなっていきます。

思いがけないトラブルから子どもを守り、インターネットと賢く付き合っていくためには、ご家庭において適切なルールづくりをしていく必要があります。利用の実態や発達の段階に合わせて、ルールについて話し合ったり見直したりしていただきますよう、お願いします。



- ☆保護者の方も一緒に、インターネットの賢い利用方法について考え、話題としてみてください。
- ☆社会で許されないことは、インターネット上でも許されないことを教えてください。
- ☆子どもが困ったときには、落ち着いて事情を聴き、親身に相談にのってください。
- ☆困ったときに相談できる窓口があることを、子どもに教えてください。(保護者の方からの相談も可能です。)

【昭島市いじめ相談ホットライン (いじめ専門電話相談)】 042-543-7633  
 ※平日 9時~17時 (土日祝日、年末年始を除く)

【24時間子供SOSダイヤル (文部科学省)】 0120-0-78310



## 家庭のルールを相談して決めましょう!



インターネット上のトラブルを未然防止していくために、利用段階に応じた保護者の手助けをお願いします。保護者が押し付けるのではなく、一緒に考え、守れるようにしてください。  
 ※SNSや動画サイトには、利用に関わる年齢制限があります。(多くは13歳以上となっています。)

### 許可すること (例)

### 保護者の関わり (例)

### ルールづくり (例)

#### ★レベル1★ 【インターネット利用 デビュー】

- インターネットサイトや動画の閲覧を許可!
- SNSは、禁止!



- #### 利用時間の決定
- 生活習慣を守ることを前提に利用時間を決める。
  - レベルアップの見通しをもたせる。

- インターネットは1日\_\_\_\_\_分まで。
- 食事中や移動中は使わない。
- パスワードは、保護者に教える。
- 夜、\_\_\_\_\_時に保護者に返す。(保護者のものであることの徹底。)

#### ★レベル2★ 【インターネット利用 レベルアップ】

- 家族限定で、メールの利用を許可!
- SNSは、禁止!



- #### コミュニケーションの練習
- 家族とメール交換する。
  - 言葉の選び方や絵文字の活用など、伝え方を練習させる。

- メール交換は、家族とだけ。
- 自分が送られて嫌なことは送らない。
- 相手が今、何をしているか考えて送る。
- 「やばい」など本来の意味以外に使われる言葉や、流行り言葉を多用しない。

#### ★レベル3★ 【SNS等の利用 デビュー】

- 家族や親戚、知人や友達に限定してメールやSNSの利用を許可!
- 知らない人とのコミュニケーションは禁止!

- #### コミュニケーションの確認
- 相手を限定してSNSの利用を許可する。
  - 直接の会話を大切に、送受信の内容確認をする。

- 友達との送受信は\_\_\_\_\_時まで。
- 大量に送ったり返信を強要したりしない。
- 意味が伝わるか、相手が嫌な気持ちにならないか、送る前にもう一度確認する。
- 友達の画像は勝手な加工や送信をしない。

#### ★レベル4★ 【SNS等の利用 レベルアップ】

- インターネット上で知り合う人とのコミュニケーションを許可!



- #### 利用範囲を広げ、見守る
- 社会規範が理解できたら、利用範囲を広げる。
  - いじめや犯罪等に巻き込まれないために見守る。

- 金銭が伴うようなやり取りはしない。
- 公開してよい情報か、他人に迷惑が掛からない内容か確認する。
- みんなが笑顔になる利用を心掛ける。
- 困ったときはすぐに相談する。

#### ★レベル5★ 【SNS等の利用 充実】

- インターネットを利用してできることを有効に活用させ、生活をよりよいものに!

- #### 自由に利用させ、見守る
- 自己判断して行動する場を増やし、成長を見守る。
  - 無自覚のうちに加害者にならないよう意識させる。

- 事実を確認せずに、不確かな情報を信じたり拡散したりしない。
- 課金や商品の購入等を行うときには、自分の利用できる範囲をよく考えて行う。
- 身近な人との直接的なコミュニケーションも大切にする。